

平成26年10月16日参議院文教科学委員会質疑

**○松沢成文君** みんなの党の松沢成文でございます。

まずもって、下村大臣におかれましては、文部科学大臣、そしてオリンピック・パラリンピックの担当大臣として再任をされたということで、おめでとうでございます。

私は野党でありますけれども、大臣とは結構、思想、哲学、政策、近いんじゃないかと思っ、今日も質問をさせていただきますが、幾つか大臣にちょっと御決断を迫らなきゃいけない質問もありますので、是非とも積極的な御答弁をいただきたいと思っます。

まず、オリンピック担当大臣として、今、東京オリンピック二〇二〇の成功に向けて様々準備を展開されていると思っます。その中で、オリンピックの会場ですね、競技会場、これ、このままでいいのか、あるいは、これ造り直すんだけれども、そんなにお金掛けないでできるんじゃないかと、コスト面も含めて東京都の舛添知事が、ちょっと今の状況じゃお金掛かり過ぎると、もう一回見直しだと言って見直しに入ったんですね。それを受けて組織委員会の方も、もちろん東京がお金出す部分も大きいので、できるだけコストが掛からないように見直しをやっていこうという今真っ最中でありまっす。

それで、私、この競技会場の選定とか内定とか見直しについて幾つかちょっと大きな疑問に当たりましたので、今日は大臣とそういう内容で議論をしていきたいと思っます。

まず、プライベートな質問ですが、大臣はゴルフなさいまっすか。それで、ゴルフ好きですか。あるいは、ゴルフをやるとしたら、ゴルフというスポーツの魅力は大臣にとって何でしょうか。

**○国務大臣（下村博文君）** ゴルフは好きですが、残念ながら年に数回ぐらいしかする機会はありませんが、しかし、選挙区が東京の板橋でほとんどもう自然が周りにありませんので、ゴルフ場のようなところへ行って大自然の中でプレーするということがストレス解消にもなりますし、気分転換にもなるということで、できたらもうちょっと行きたいなと思っているぐらいであります。

**○松沢成文君** 大臣、ゴルフやられるということで、ちょっとこの議論はかみ合うような議論になるかと思っんですけれども、オリンピックで、リオデジャネイロのオリンピックからゴルフというのがまた競技としてこれ始まるわけですね。当然、東京オリンピックでもこれは、ゴルフは競技として開催される方向なんですけれども、オリンピック

においてゴルフ競技をやる場合のゴルフ場というのはどういう会場が望ましいと思いますか。

ちょっとこれは抽象的過ぎるので、例えば一つ例を出しますけれども、今ゴルフ場には、プライベートの、会員制の結構高級なゴルフ場と、パブリックとって誰でも予約すれば会員であるなしにかかわらずプレーができる一般開放型のゴルフ場があるんですね。

オリンピックの精神、オリンピックの精神というのは憲章にいろんなこと書いてあるので私も全て把握しているわけじゃないですが、スポーツを通じて平和や、あるいは国際親善をしっかりとつくっていかうということだと思います。そういうオリンピックの精神に照らし合わせると、一部のお金持ちが運営をしているプライベートコース、まあでも、これは結構いいコースたくさんあるらしいですね。でも、一般開放されて誰でも使える、オリンピックが終わっても、ああ、あそこでオリンピックやったんだと、自分もプレーしてみたいなと思ったらまた行けるわけです、誰でも、こういうパブリックのゴルフコース、これどちらでやるのがオリンピック精神にかなうと思いますか。

**○国務大臣（下村博文君）** ゴルフ会場におきましては、世界中のトップアスリートがベストな競技ができる会場であるということはもちろんのこと、運営のための十分なスペースがあって、そして安全で円滑な大会運営が認められる場所ということだと思います。

オリンピックの競技会場については、オリンピック後のレガシーの観点はもちろんのこと、コースの良しあしなど競技性の観点、それから大会運営の観点、総合的、多角的に検討、選定をされるべきものでありまして、松沢委員もゴルフをされるかどうかは詳しくちょっとお聞きしたことはありませんでしたが、今は余りパブリックでもプライベートでもそれほど変わらなくなっていると、必ずしもプライベートだからいいゴルフ場ばかりということではなくて、パブリックでも相当いいゴルフ場があるというふうに思いますし、要はそういう、本当にオリンピックにふさわしいようなゴルフ場かどうかということで、余りパブリックとかプライベート、とらわれるという必要はないのではないかとこのように思います。

**○松沢成文君** 私も大臣と同じか、もうちょっとぐらいます。大体月一ゴルファーでして、ですから、なかなかうまくありませんが、目指せボギーペースぐらいで頑張って、でも、ゴルフというのは、体力的なもの、技術的なものだけじゃなくて、非常に精神力の要求されるスポーツで非常に面白いスポーツですね。ですから、私は、ゴルフ

をやるのも見るのも大好きなんです。

今、大臣の答弁で、オリンピックにふさわしいゴルフ場というのは、もちろんほとんどプロの選手が来るわけですから相当難しいコース設定ができるかとか、あるいは広さに余裕があるとか、あるいは大会運営の実績があるとか、こういう総合力で評価されるべきだと思います。おっしゃるように、今パブリックでもプライベートでもいいゴルフ場はあるし、パブリックかプライベートかじゃなくて、やっぱりゴルフ場全体を考えて判断されるべき、私もそのとおりだと思いますね。

さて、大臣、ゴルフをやられるということですが、大臣は大臣の選挙区からちょっと北の方、東の方に行った霞ヶ関カントリー倶楽部という日本を代表する名門プライベートゴルフコースでプレーをされたことがありますかというのが一つと、もう一つ、東京都がパブリックコースとして東京湾のど真ん中に夢の島を埋め立てて造った誰でもできるパブリックコース、若洲ゴルフリンクスというのがあるんですね。このゴルフ場、この二つのゴルフ場でプレーをされたことはありますか。

**○国務大臣（下村博文君）** 元々ゴルフは余りする機会がなく、下手なゴルフですが、たまたまですが、両方とも一度ずつゴルフをしたことがあります。

**○松沢成文君** ああ、そうですか。

なおさらこれは話がかみ合いますね。実は私もこれ両方とも視察に行ったんです。行きました。なぜかという、今回のオリンピックのゴルフ競技の選定で、実は霞ヶ関が内定しているんですね。ところが、この決定の仕方はおかしいと、むしろ前の二〇一六年のオリンピックの招致のときには若洲で立候補しているんです。それで、今度のオリンピックも最初の申請は若洲でやっているんです。ところが、その後、ごちゃごちゃごちゃごちゃいろいろな会合があつて、途中で何だか分からないけれども、霞ヶ関に変わっちゃっているんですね。

さあ、この二つのゴルフ場をちょっと比較をしてみたいんですよ。どちらがオリンピックをやるにふさわしいかということで。

まず、霞ヶ関はプライベートのコース、若洲はパブリックのコース。ですから、みんな、あんなオリンピック競技をやったところでやりたいなと思って、皆さんがやれるのはむしろ若洲ですね、開放型です、一般開放していますから。

それから、東京オリンピックはコンパクト五輪というのを目指しているわけです。できるだけ選手村やプレスセンターから半径八キロ以

内で、選手に遠くにまで行くという負担がないように、観客も大変ですから、できるだけ東京湾岸の近いところでやりましょうと、その方がコストも安くなるわけですね。

若洲というのは選手村から僅か四キロ。ゴルフだから歩いても行けるんですよ。ゴルフカートでも行けちゃうんです。すぐそばですよ。霞ヶ関、もう選手村から百キロ以上あるんじゃないかな。どれぐらいか分かりませんが、かなり遠い。選手村から五十キロだ。それで、車で、夜走って一時間、昼間走ると一時間半掛かります。

それで、若洲の方は選手村に近い、したがって、ホテルにも近い、非常にいいところです。もっとアクセスでいえば、羽田空港から僅か十分、やっぱりみんな羽田空港から来るでしょう。それから、東京の都心から本当にもう十分です。やっぱりギャラリーの皆さんだって行きやすいですよ。ですから、立地の面で考えると、圧倒的に若洲の方がオリンピックに向いているわけです。

次、ちょっと景観というのはあれですけど、霞ヶ関も丘陵コースで松の並木がすごいきれいでした。いいゴルフ場だなと感じますよね、ゴルファーだったら。ところが、若洲がすごいところは、東京湾のど真ん中の島ですから、ディズニーランドは見える、あるいは東京タワー始め品川とか汐留の高層ビル群が見える、そしてこちらには新しくできたゲートブリッジ見えて、もう本当にすばらしい景観なんですよ。こういうゴルフ場は日本では若洲だけですからね。

それから、いろんな特徴がありまして、実は、先ほど言いましたように、若洲は、東京で出たごみ、それを埋め立てて、上をゴルフ場にして造ったんですね。だから、最初はメタンガスが出るなんてと言われましたが、今はそれがいい起伏になって、すばらしいコースに発展してきています。ですから、環境政策をアピールするにも、昔はごみ処理場だった、それをゴルフ場にして今一般開放をして皆さんが喜んでいる。これ世界にアピールできますよね。その上、設計者がかの有名な岡本綾子さん。恐らく日本のプロゴルファーでは世界で最も有名な方の一人だというふうに思います。こういう特色もあるんですね。

それから、私は最大の問題だと思うのは、オリンピックをやる七月の終わりから八月の初めの日本の真夏の気候、もう三十五度、湿度八〇%。埼玉県というのは、ここの中に県民の方がいたらちょっとごめんなさいなんです、内陸ですごく暑いんです。もう熊谷なんて四十度行っちゃうぐらい。霞ヶ関も埼玉県の内陸ですから、恐らく日中の温度は四十度になっちゃいます、体感温度は。そうすると、プレーヤ

一が途中で熱中症になるどころか、一万人からのギャラリーが集まるんです、この人たちがぼったぼった熱中症で倒れますよ。なぜこの暑い夏に内陸部のど暑いゴルフ場でやらないきゃいけないのか。

一方、若洲は周りじゅう海ですから、海風が吹いて、体感温度は低いんですね。これプライベートのコースですから、もし少しお金を掛けると、ナイター設備を付けて深夜にゴルフやればもっと涼しいんですよ。それで、深夜にゴルフやると、オリンピックはテレビ放映権が最大の収入源ですから、深夜にやればヨーロッパやアメリカの時間でゴルフ放映が生中継できるんですよ。こういうアイデアもあるんですね。ですから、気候の問題を見ても、圧倒的に若洲の方が私はこの時期にやるオリンピックとしては向いていると思うんですね。

そういうことで、これプライベートかパブリックかということに関係なく、いろんなゴルフ場の持つ立地だとか、あるいは環境面、あるいは気候面、こういうものを考えても、どう見ても私は、霞ヶ関でやるよりも若洲の方が、プレーヤーもギャラリーも喜んで、事故もなく、日本の環境政策もアピールできる、こう思うんですよね。

今、私いろいろと理由を述べましたけれども、大臣、この二つのコース回ったことある、まあ、どっちがいいコースかというのは大臣の主観もあると思いますが、ただ、オリンピックをやる条件として大臣はどちらがふさわしいと思いますか。

**○国務大臣（下村博文君）** 霞ヶ関はゴルファーの憧れの場所の一つと言うぐらい名門のゴルフ場ですよ。しかし、意外と私そこで、もちろん会員じゃないわけですが、簡単にゴルフができたということがあって、一方で若洲は、パブリックということもあるんでしょうけど、相当競争率が、抽せんでプレーできるかどうか、私、五年も掛かったんですね。すぐいっぱいになっちゃうんですよ。ですから、五年たってやっとできたところであったので、感激で言うと、実はパブリックであっても若洲の方が感激をしたんですが、今の松沢委員のその分野におけるその分析で言えば、多分そのとおりだというふうに思います。

ただ、オリンピックでのゴルフ競技会場はそういうコンセプトで選択をしているわけではなくて、国際ゴルフ連盟、IGFのゴルフ競技に関するデザイン基準におきまして、競技エリアのほか、二万五千人の観客を収容するスペース、それから放送施設設置エリアなど大会運営に係るスペース約七千平米、また駐車スペース約一万平米など、相当の面積が必要であるというふうに規定をされております。

私も若洲は非常にいいところだなと思ったんですが、やっぱり埋立

地であるということで、ちょっとやっぱり狭いなという感覚は当時持ったことは事実なんですね。ですから、このようなことがクリアするのが難しいということで、多分、若洲ゴルフリンクスにおいては、IGFの基準のうち、観客を収容するスペースとか、それから大会運営に係るスペースが不足していて拡充も難しいということがオリンピック会場としての要件を満たさないというふうに判断としてなったのではないかとこのように漏れ聞いております。

[○松沢成文君](#) 私もそういう話はいろいろと聞かせていただいているんですが、これ、このゴルフ競技の会場の設定をしていく会議の中で、私は随分調べたんですが、不透明な部分が非常に多いんです。

先ほど言ったように、最初は、二〇一二年二月は、実は東京五輪の会場の申請ファイルに、IOCに出したやつですね、これ若洲で出しているんですね。最初の二〇二〇年のオリンピックも若洲でいこうと出して出しているんですが、その二〇一二年の四月に、これ五輪対策本部につくられた二〇二〇東京招致委員会の第一回目の会合があって、ここにゴルフ関係者の方が集まっています。集まっている方も全部分かっていますけれども、個人名は避けさせていただきます。そのときに、やっぱりその人たちは名門霞ヶ関を、あそこでやって、それで世界的な有名なゴルフ場にしようと。マスターズはオーガスタ、あるいは全米オープンにはペブルビーチ、あるいは全英オープンにはセント・アンドリュース、こうやって世界のゴルフ先進国には世界中の人が知っている名門な知名度の高いゴルフコースがあるんですが、日本にないんです。だから、霞ヶ関をオリンピックでやって世界中に有名にしたい。だから、霞ヶ関に持っていきたいと考えた方が多いんだと思います、私。

それで、実は条件をいろいろつくったんです。例えば、国際試合の実績があるか、七千ヤード以上あるかとか、あるいは三十八ホールあるかとか。あるいは、ちょうど霞ヶ関が入る晴海から五十キロ以内、車で一時間以内と、ぎりぎりセーフなんですね。それで、一日一万五千人から二万人のギャラリーの収容能力なんですね。これ、どう見ても霞を入れて若洲を落としたいと、こういう条件なんですね。ここから私不信感あるんです。

例えば、若洲も、私、コース関係者に聞きましたから、七千ヤード以上に改良するのはほとんどお金掛からずにできちゃいますと、こう言っているんですね。それから、三十六ホールないけれども、世界の国際大会で十八ホールで国際大会、大きいのがやっているところたくさ

んあるんです。これは世界基準で言っているんじゃないで、あくまでもこの会合でつくった条件なんですね、若洲を外すために。それから、多少遠くてもいい、車で一時間以内ならいい、霞ヶ関を入れたいわけです。ギャラリーの収容能力も、若洲はいろんなところを配置換えすれば十分に収容能力できます。

例えば、練習場が必要なんですね、プロが練習するために。その練習場も、実は海外のある例で、海に向かって練習場で打たせて、その後、全部ボールをダイバーが拾うという、こういう、場所を使わないで海を使って、練習場もやって国際試合もやっているという例もあるんです。これこそ、私は無理して埋め立てたりしないで、環境にも配慮したやり方だと思うんですね。

こうやって会合が二回開かれました。その中で、若洲の反対論を言う人が多くて、だんだんだんだんこうやってそういう人たちは理論武装をして、若洲を外して霞ヶ関を入れようということやっていったわけです。

これは本当に重要な会場決定の会合なんで、私は議事録出すべきだと思うんですね。ただ、議事録要求しても、何かA4三枚ぐらいの、こういうことが議論されましたという報告書しか出てこないんです。だから、誰が何を言ってどういう経緯で若洲が霞ヶ関にひっくり返ったかというのは分からないんですね。極めてこれ決定過程が不透明なんですよ。こんな形で私は霞ヶ関に決定していいのか。私は大きな疑問を持っているんです。

それで、実はこの霞ヶ関の方にも少し聞いてみたんですけども、当然プライベートゴルフ場ですから理事会があります。理事会も、理事長さんなんかは推進派ですから、やりましょう、霞ヶ関に決まったって発表されましたので、いいですよとなったんですが、これは理事会の中は賛否両論渦巻いているんです。

例えば、霞ヶ関でやろうとしても、今霞ヶ関、ツングリーンですから、これをワングリーンにしないとというのは、これ国際基準なんです。ワングリーンにすると、また相当な改良費が掛かるわけですね。ゴルフやるとしたら二万人のギャラリーが入りますから、仮設スタンドも造る。それから、霞ヶ関の場合は会員制ゴルフ場で、オリンピックで使うとしたら恐らく二、三か月休まなきゃいけない。そのための補償だとか、いろんなお金が掛かってくることが分かったんです。

じゃ、これどこで負担するのかと。やってくれと言うんだから国が出してくれるでしょうと、そう思いますよね。でも、国はそこまで言

わないわけですね。いや、これは霞ヶ関、お金持ちなんだから、このワングリーンの改修なんかあなたたちでやってよみたいに、今もめ始めちゃっているんですよ。つまり、霞ヶ関でやると決まっても、これはやっぱり理事会で、倶楽部、メンバーの皆さんの持ち物ですから、ここで紛糾しちゃいます。がたがたになっていきます。それで、霞ヶ関はやっぱりできないというのをこれから半年後、一年後にそんな反応が返ってきちゃったら、もうどんでん返しもいいところで、またチャラに戻っちゃうんですね。

それで、今度、JGAの会合では若洲を外すためにいろんな工作をしまして、一番目は霞ヶ関です、二番目は横浜です、ここまで決めたんです、霞が駄目なときに。でも横浜は、こんなのやっつけられない、自分たちで負担するようなことはやっつけられないということで、もう私たちはやりませんと宣言しちゃったんです。そうしたら、霞ヶ関に無理に持って行って、いろんなことがこれから噴出して、理事会でももめて、霞ヶ関やっぱりできないとなったときに、これどうするんですか。それから新しい候補のゴルフ場見付けて間に合うんでしょうか。私は本当に心配なんですね。

さあ、そこで、若洲ならば、先ほど言ったように、いろんな工夫をすれば十分にキャパシティーの面でも大会運営の面でも応用できるんです。それこそお金を掛けないコンパクトな五輪じゃないでしょうか。現に、大臣が昔いらっしゃった東京都議会、東京都議会はもう絶対若洲だと、若洲賛成なんですね。だから、今後、都議会でも議論が出てきます。今日、私は国会で問題提起させていただきました。都議会でも議論が出てきます。まあこういう混乱状況に陥っているんです。

さあ大臣、今の状況を考えて、ゴルフ競技をオリンピックで成功させるためには、私はこのどちらがふさわしいかというのを客観的に検討しても霞ヶ関より若洲の方がふさわしいと思う。それから、決定過程を見ても、極めて一部のゴルフ関係者が強引に霞ヶ関に持って行って若洲外しをやっている、それが議事録が公開されていないという不透明さ。長野五輪のときも、誘致のときのお金の使い方、後でそれが発覚して大もめになりましたよね。そうなる可能性もある。その上、霞ヶ関の理事会はごちゃごちゃな議論で、やるなんて決まっていない。東京都は地元の東京でやってほしい、コンパクト五輪目指しているから東京都議会も大賛成だ、これが私が取材した今の客観的状況なんですよ。

さあ大臣、どう思いますか。大臣として、最高責任者としてこれは

検討し直してやっぱり軌道修正しないと、私はゴルフ競技成功できないと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 東京都は決定過程が不透明とかなんとかいうことではなくて、ですからゴルフ場は対象には入っていないと思いますが、今競技場の見直しそのものはしているわけですね。これはそのコストの問題とそれから環境問題併せて、当初の計画どおりではとてもやれない、あるいはやれる環境にないということで、東京都の造る競技場の見直しを組織委員会と一緒にやっている最中でありまして。国がやるのはこれは国立競技場だけでございますが、改修工事ではなくて改築工事をやるということで進めているわけでございます。

この中で、実は私も、月刊文芸春秋今月号、記事を書かせていただいているんですが、結構購読をしているものですから、このことについて二か月ぐらい前の月刊文芸春秋でも記事で書いてありましたから読んでおりまして、松沢委員が質問される以前に私もこれは確認をしました、もしそういう危惧があるのであれば、これはもう大変なスキャンダルにもなることでもありますので。

その結果、ちょっと事実関係を申し上げたいと思うんですが、会場の選定に当たっては、二〇一二年二月に東京都がゴルフの国内競技団体である公益財団法人日本ゴルフ協会、JGAに対し、立候補ファイルに記載する会場候補について国内競技団体としての意見集約を依頼をしました。日本ゴルフ協会では、二〇一二年四月、ゴルフ界全般の専門知識を有する有識者で構成する委員会を設置し、あらかじめ選考基準を決定した上で候補地の選定を行っております。この委員会には、日本プロゴルフ協会副会長や日本女子プロゴルフ協会副会長、開催都市である東京都等も参画をし、適正なプロセスを経て候補地の選定が行われたというふうに聞いております。

その後、東京都及び招致委員会において、国際競技連盟である国際ゴルフ連盟の現地視察を踏まえた会場承認を経て立候補ファイルに会場計画を記載しており、全体としての手続も適正に行われているというふうに報告を受けております。

二〇二〇年大会の競技会場については、現在、東京都及び大会組織委員会において、コスト面、それから先ほど申し上げたようなレガシー利用等の観点から会場計画の再検討が行われているところではありますが、現時点では、ゴルフ会場については会場変更を要するような大きな課題があるとは聞いていないというのが現在の状況でございます。

○委員長（水落敏栄君） もう時間が来ております。

○松沢成文君 済みません、時間が来ておりますので。

この件については、十一月にI O Cのジョン・コーツさんという調査委員長が来て、視察に来ます。そのときに霞ヶ関に行くんですが、私は、やっぱりここで軌道修正して若洲も見えていただいて、I O Cの立場からどちらがふさわしいのか、これきちっと見ていただいた方がよほど公平だと思うんですね。是非とも大臣、これは、私は霞ヶ関のまま強引に持っていっても成功できないんじゃないかとすごく危惧してしまっていて、そうであればまだ間に合います。来年の二月ですから、最終的に計画を出すのは。あと四か月あるわけで、ここでもう一度大臣の下でしっかりと検討し直していただいて、ゴルフ競技成功のためにリーダーシップを取っていただければなというふうにお願いをして質問を終わります。